

土屋 公雄

TSUCHIYA Kimio

1955年福井県生まれ／松戸市在住
Born in Fukui 1955 /Living in Matsudo



オリンピック記念シドニースカルプチャーワーク（2000年）、東京大空襲犠牲者追悼平和モニュメント制作（2001年）、東京駅前新丸ビルに作品設置（2002年）をはじめ、場所やそこに住む人々の記憶をキーワードとして、現地の素材にこだわる作品などを国内外に制作設置している。2002年にはサンパウロ・ビエンナーレ日本代表となる。

時の知層 Strata of Time

「和泉シティプラザ」エントランス広場に設置された、ガラスの塔「時の知層」は、和泉市の歴史性・地域性・文化を物語る様々な場所で採取された土と、現代のテクノロジーによって生み出されたプラスティック・ガラス等のリサイクルチップ素材、さらに市内の幼・保育園児による手作り粘土作品が、「過去の層」「現代の層」「子供達の未来の層」として、複雑に積層されながら高さ10mの地層を成している。

過去と現代、そして未来を連続させること。作品の持つ意味とその作品の置かれる場所性を連続させることは、今回の重要なテーマである。

また制作あたり、桃山学院大学の学生ならびに市民の方々と「アートワークボランティア」を結成し、素材集めから制作にいたるまで、直接的に関わっていただけた事は、市民参加型のパブリックアートとし、画期的なプロジェクトとなった。

今後このモニュメントが、市民と一緒にしたシンボルとして、新たな風景の一部となってくれる事を願っている。

土屋公雄

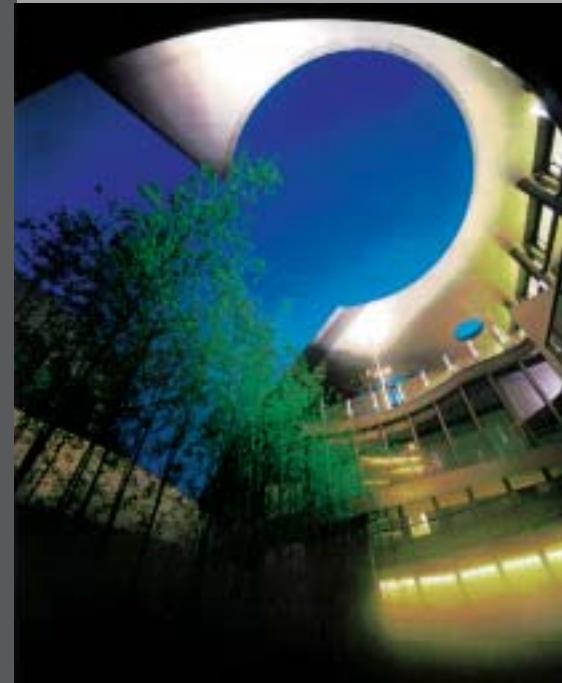
The work in which soil of various parts of Izumi, clay works by children and recycled tip material are stratified into the huge glass box. This memory of Izumi is created through the workshop with students and citizen.

1.8m x 1.8m x 10.2m /強化ガラス、ステンレス、和泉市内の土、砂、小石、和泉市内園児たちによる粘土作品、プラスティック、ペットボトル、ガラスのリサイクル材



和泉シティプラザアートワーク

IZUMI CITY PLAZA ART WORK





泉北高速鉄道和泉中央駅下車徒歩3分
和泉シティプラザ IZUMI CITY PLAZA
〒594-0041
大阪府和泉市いぶき野五丁目4番7号
TEL 0725-57-6661(代)
<http://www.city.izumi.osaka.jp>

協力：
「時の知層」
和泉市内幼稚園保育園の園児の皆様（7園）
ワークショップボランティアグループ

協賛：日高陶園、佐竹ガラス、日本興産株、
根来産業株、大栄環境株、アイ・あいロビー、
桃山学院大学

「Time Garden」
和泉市在住の65歳以上の方120名（一般公募）
ワークショップサポーターの皆様（一般公募）

コラボレーション
構造デザイン：今川慶英（ティアイエスアンドパートナーズ）
照明デザイン：近田玲子（近田玲子デザイン事務所）
インテリアデザイン：藤江和子（藤江和子アトリエ）
図書館計画：菅原 峻（図書館計画施設研究所）
ホール計画：近江哲郎（A.T.Network）
ランドスケープデザイン：ナンシー・フィンレイ+千葉 学
アートワーク：空間造形コンサルタント
建築設計：株佐藤総合計画

施工：株大林組

和泉シティプラザ アートワーク
IZUMI CITY PLAZA ARTWORK
発行：和泉市
撮影：株SS大阪
（有）A.P.First 荒木義久
渡辺 宏
編集：株佐藤総合計画
空間造形コンサルタント
英文は各作品解説またはコンセプトの抄訳です。

吉田 重信
YOSHIDA Shigenobu



1958年福島県いわき市生まれ／いわき市在住
Born in Iwaki 1958 /Living in Iwaki

宇都宮美術館、国立西洋美術館、いわき市美術館など各地で数多くの「虹アツメル」ワークショップを展開、水、鏡、プリズムといったシンプルな素材で光の変化を視覚化する作品を制作している。2001年には「テクノ・ランドスケープ」（東京オペラシティ）やヘイワード・ギャラリー（ロンドン）など内外の展覧会にビデオ作品を出品、活動の幅をひろげている。

虹龍 Rainbow-Dragon

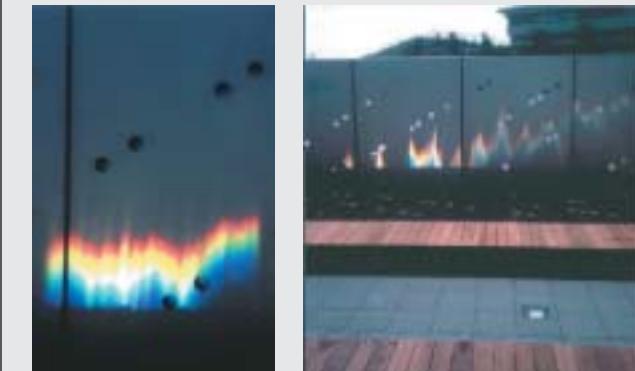
和泉シティプラザの東側にある、長さ70mの駐車場の壁に太陽光と水を使って虹が映る光の現象を制作した。

虹は、水の中に設置したステンレスが太陽の光を屈折反射させることで水の揺らぎの中から虹を発生させる。それは、シティプラザ上空の太陽と一体であって自然の変化で様々な表情を見ることになる。古代から虹は天と地を結ぶ美しい掛け橋であり、天気が回復することを知らせる輝きであった。また、虹の虫は蛇、工はつらぬくの意味で天空をつらぬく龍でもある。龍には両頭龍の姿で水中に棲み雲雨に会うと天に昇って龍になる蛟龍と亢龍がある。蛟龍は英雄豪傑が時運を得て実力を發揮することであり、亢龍は栄華を極めた者の喩えである。また、夢で見る虹は幸運の知らせであったり、嬉しい出来事や新しい物事の始まりとも言われ、虹の根元には財宝が眠っている伝説もある。

現実に虹を捕まえる事は出来ないが、和泉市の虹は常に現れて体験する事が出来る。今回の作品虹龍は蛟龍と亢龍を会わせた考えを基にして、町に希望と輝きをもたらす事を願い制作した。

吉田重信

The work in which the light passed water reflects in the stainless wall and shines in rainbow color. The always changing rainbow projects the nature of Izumi.
(It is visible from around 10:00 a.m. to noon of fine day.)



アントニー・ゴームリー
Antony GORMLEY

1950年ロンドン生まれ／ロンドン在住
Born in London 1950 /Living in London

1998年イギリス、ゲーツヘッドに巨大な「Angel of the North」（20mHx52mW）を設置したのをはじめ、2000年には、ロンドンのミレニアムドームやオスロ、ベルリンなど各地で、人間と存在する場所との関係性を考えさせる作品を制作。日本でも、鹿児島の霧島アートの森（1999）や大阪、梅田ガーデンシティ（2000）に作品を設置、2003年には12万体のテラコッタによる「Asian Field」を中国で巡回予定である。

こちらとあちら Here and There

ここにわたしがいる そして作品はあちらにある
そんなにシンプルなものだろうか？空間に高く掲げられた彫刻、
より正確にいえば、ポールの上に固定されている彫刻は、
ヨーロッパの慰靈碑や特に戦争の英雄記念碑としてむしろ見慣
れているかもしれない。

しかし、この身体の形は英雄ではない。大地と天空との間で
ただ単に宙ぶらりんな身体。実際、地上10mのポール上で、
それはどんな風に感じているのか？実際試してみた。
とてもこわいー膝はガクガク、絶対に下を見てはいけない。
見たら放り出されてしまう。

聖職政治時代の古い法律に次のような言い回しがある。
高く掲げられるとは孤独である、多分より遠くは見えるが、触
れることのできないものであると。

そしてこの作品は何だろうか？
身体がかつてあった場所、身体がかつて占めていた空間、だれ
の身体でもあり得る空間、わたしの身体でもあなたの身体でも
ある身体が、ふたつの大きな水の缶のなかに海を、空の裂け目を、
地球、世界と無限の空間が互いに行き来する場所を見つめてい
る。これは、空間帯に高く投げ出された掲げられた身体の集ま
りbodymass—軌道へと旅する途中で、方向を求めてちょっと
立ち止まっているある身体ともとれるだろう。

アントニー・ゴームリー

The work connects the new City Plaza with the adjoining
water supply tanks which symbolizes the source of civic life.
Gormley mentioned, "my body, your body, looking out on
the sea in two big cans, on the chinks of sky, on the spaces
inbetween where the earth , the world and the limitlessness
of space interact."

190cm/コールテン鍛鉄（人体）10m/コールテン鋼（ポール）



宮島 達男
MIYAJIMA Tatsuo

1957年東京都生まれ／茨城県在住
Born in Tokyo 1957 /Living in Ibaraki

1988年よりデジタルカウンターを使い、永遠に輪廻する
命が刻む時間をテーマとして作品を制作。1999年ウェネ
チア・ピエンナーレの日本代表として「MEGA DEATH」
を発表したのをはじめ、2002年には韓国（ソウル、慶州）
での大規模個展など多数の展覧会を開催、国際的に活躍し
ている。また、1995年より長崎の被爆柿二世を世界各地
で住民とのワークショップを通じて植樹する「時の蘇生」
柿の木プロジェクトを続けている。

時の庭 Time Garden

作品のテーマは「かぐや姫」。

私が使う数字表示機は、「輝く生命」の象徴です。

これを、和泉市在住の65歳以上のお年寄り120人に自由に
スピードを決めてもらいました。
設定にあたっては、若い20人のサポートーがお手伝いをしてく
れ、年代を超えた共同制作になりました。

小さな表示機は「竹林」の庭に光って宿る永遠の「命」。
全体として星の瞬きのような交響曲を奏でます。

その瞬きは、年代を超えて共作された「命の物語」なのです。
宮島達男

Digital counters installed in the bamboo garden visualize
time and life. Each timer of the counter was set by the local
elderly participated in the workshops.
(The work is on at night.)



山口 晃

YAMAGUCHI Akira



1969年東京都生まれ／東京都在住
Born in Tokyo 1969 / Living in Tokyo

2001年に第4回岡本太郎記念現代芸術大賞特別賞を受賞、
2002年には「新版日本の美術」(山梨県立美術館)に出品、
また「UFO」CDジャケットをデザイン、静岡県立ガンセ
ンターに作品を設置、場所の歴史的背景と現代の風景をア
ーティスト自身のイメージによって重ね合わせる作品など、
多様な活動を展開し注目を集めている。

いずみ 市名所圖畫 Historic Scenery of Izumi City

此の度の制作にあたり、市内七ヶ所
を案内された。どこも面白い。
中でも池上曾根遺跡は最高であった。
まずロケーションが抜群で、遠くに大
阪湾の巨大クレーンが赤白のだんだら
を見せ、隣には色とりどりの錆びたコ
ンテナが積み上げてある。目の前はバ
イパスで、背後は新興住宅地やとり残
された様な寺がある。そこに環濠集落
よろしく鉄柵がめぐらされ、復元され
た巨大木造建築がテンと建っていると
いう訳だ。復元と云っても掘建柱の穴
の跡しかないところで行うのだから並
大抵のコトではない。「研究者の数だけ
形ができる」と云はれる所以だろう。
この建物には公募された「いずみの高
殿」と云う愛称まであるらしい。

重なり合い入れ子になり、頭尾を交
換させるこれら諸相に私はすっかり参
ってしまった。帰りがけ、敷地の隅で、
近所の子供が地面に棒くいで描いたら
しいバスの絵を発見するに至り、「出
来すぎだ・・・」と唸らざるをえなか
った。

山口 晃

The historic scenery of the Izumi
City created through artist's image
into ceramic art tiles, installed along
Hall and Tea Ceremony room.
It appeals the characteristics of the
present and historical images of this
area.



60cmx60cmx1.3cm / 4色刷絵画仕様陶板19枚



2

建築設計

多機能融合の可能性と実践—オアシスでつなぐ—

本施設は、和泉市の新都心、和泉中央駅前に位置し、市内に分
散している既存公共施設の拠点として機能します。6機能（図書
館・ホール・保健福祉センター・男女共同参画センター・生涯学
習センター・市役所出張所）が連携して運営・事業が可能な空間
構成しています。また、多くの出会いをうむ空間（グランステ
ップ・3つのオアシス）を融合させることで、新たな複合化の姿
を提案しました。

市民の生活動線ともなるプロムナードはにぎわいを呼び、円形
の中庭を囲むグランステップ（大階段）は各施設を結び語らいの
場となるでしょう。

そして、それを可能とするテクニカルな基盤として、フラット
スラブ構造による間仕切り変更等の柔軟性の確保、人間の動きに
追従した照明計画、自然を凝縮させプライベートとパブリックをつ
ないだランドスケープ、和泉を体感できるアートワーク群、空間
と人の動きをつなげ視覚的効果をねらったインテリアデザイン、
そして大屋根の集熱作用を利用した地下駐車場重力換気システム
をはじめとするさまざまな環境共生システムの導入などです。

構造・照明・ランドスケープ・アートワーク・インテリア・
設備技術、それぞれが互いに呼応し、施設づくりに統一感とやす
らぎを与えるようコラボレーションによる専門家の知恵を結集し
た設計・監理を行いました。

設計当初から市民懇談会での設計への反映、工事中にもア
ートワークのワークショップの開催など、市長のリーダーシップの
もと市民参加の計画と実践を反映することができたのではないかで
しょうか。市民の方々が施設を利用する中で、時代に促した新
たな可能性を見つけていただき、私達の予想を超えてすばらしい
活動展開が生まれることを願います。

(株)佐藤総合計画

Connecting with Oasis

— Unified Multi -Functional Space —

This facility was designed based on the concept of uniting
multi-functional space and public space into a new form.
All the efforts of the specialists of structure, lighting,
landscape, artwork, interior design and environmental
technology were concentrated to collaborate on creating a new
possibility for the Izumi City.

It should be specially mentioned that local people actively
participated in the procedure through workshops reflecting
civic voice.

AXS SATOW INC.

ランドスケープ

和泉シティプラザには、いくつかの「オアシス」と呼ばれる庭
があります。あたかも唐突に穿たれた穴のようにして、施設全体
に鏤められています。その「オアシス」全体を貫くイメージは
「自然現象」です。

市民が自由に使い利用していくこのシティプラザは、ガラスや
金属、コンクリートなどの現代的な素材によって、今後成長して
いく未来の街のイメージを体現するものとなっていますが、同時
にこの地には、長い年月にわたって培われてきた豊かな自然環境
が残っています。その自然環境を記憶としてとどめるための場所
として「オアシス」はあります。光のうつろい、風になびく木々
のざわめき、地面から沸き上がる水の湿り気や森の暗闇、あるいは
四季折々に変化する風景、こうした現象を一人一人が自分の場
所として体験できる空間、それをアーティストの方たちとともに
作りあげました。

そこは多くの人と出会うこの和泉シティプラザにあって、今一度
自らとその土地とに思いを馳せる場所になるでしょう。

ナンシー・フィンレイ+千葉 学

Natural Phenomenon

There are several void spaces called "Oasis" garden,
located in the Izumi City Plaza. The image common to the
whole "Oasis" garden here is "natural phenomenon" which
projects rich natural environment still remains in this area.
We, together with the artists, created the space where people
can experience these phenomenon as his/her own place.

Nancy FINLEY + CHIBA Manabu

ごあいさつ

和泉市民の生活・文化の新しい拠点として「和泉シティプラザ」が誕生しました。市民が共に集い、学び、ふれあう場に、国内外で活躍する6人の作家がアートワークを制作、建築と調和した憩いの空間、そして和泉市の新たな風景の創出をめざしました。それぞれの作品は、和泉市という地域性を充分に考慮し、作家と市民との緊密な協働により制作されました。これらの作品が交流と対話のシンボルとして多くのひとびとに末永く親しまれることを期待しております。

和泉市

Message

"Izumi City Plaza" was born as a new center for the life and culture of citizens of the Izumi City. Six artists, active inland and abroad, created artworks which realize new scenery of Izumi for gathering and learning.

Each work was created fully in consideration of identity of the city by the close collaboration between the artists and citizens. These works expect being loved from many people as a symbol of interaction and dialogue.

Izum City

和泉シティプラザ アートワーク

和泉：記憶と時間に出会う新たな風景

和泉シティプラザのアートワークは、「和泉：記憶と時間に出会う新たな風景」をテーマに、内外で幅広く活躍するアーティスト6人によって制作されました。その制作過程は、アートと建築やランドスケープとの領域を越えた環境形成の試みや、市民、学生、子供たちが参加したワークショップの開催など、多くの協働や対話を通じたものとなりました。

その実現過程で、設計の初期段階からアートが、建築、ランドスケープとともに全体コンセプトの検討に深く関与できることは画期のことでした。これにより、単体のオブジェを設置するという従来型のアートワークのあり方を越えて、よりダイナミックな風景全体を創り出すことが可能となったのです。

建築に穿たれたヴォイド空間（三つのオアシス）には、地域の人々が過去や将来を通じて過ごす時間や記憶を自然の要素に重ねることで、自然と人がともに生きる地域の風景を創り出すことが提案されました。さらに、多機能の施設全体を結び付ける物語性の高い作品や、周辺とのインターフェイス部分をパブリックな空間として関係づける作品の必要性が検討されました。

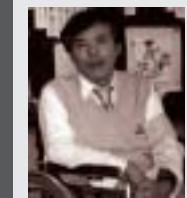
各作家はそれぞれ和泉という場所や人々との対話を通じて作品を創り上げてくれました。吉田氏は、移り変わる和泉の光を虹として映し出す作品を提案。光の微妙な変化に対応するステンレスの角度を長時間かけて割り出してくれました。土屋氏は、学生や市民ボランティアとともに、和泉各地の土を集め、子どもとの粘土細工づくり、地元のリサイクル素材を調達し、過去、現在、未来への記憶の層をガラスの塔に積み重ねました。また、宮島氏は、市内の高齢者120名を公募、若いサポーターたちの協力を得てデジタルカウンターを設定するワークショップを開催、和泉に長く住んできた人々の時間と命とを作品に吹き込みました。また、ゴーミリー氏は、現地で隣地との関係性に注目、境界に人体像を立て、市民の命の源である配水池を再認識させる作品を設置。山口氏は、市内のさまざまな場所を訪ね、その地が担う歴史と現在の在り様を独自のイメージで表現してくれました。また永年市内で詩作活動をしている有安氏は、和泉の四季や生活を詠った6詩を制作。これらは施設のベンチ、手すり、ステップなど各所に刻まれ、建物全体を物語として結び付けています。

このようなプロセスを経て実現されたアートワークは、多機能のこの施設が市民全体の交流の場であることを象徴しています。このシティプラザ全体が織りなす空間が市民ひとりひとりに体験共有され、それが将来にわたってパブリックな原風景として成長してゆくことを期待いたします。空間造形コンサルタント：清水裕子 Izumi: New Scenery to Encounter Memory and Time The artworks of the Izumi City Plaza are projecting the nature, culture and history of Izumi, aiming at the creation of the original scenery of civic recollection. Six artists, who are internationally active, worked together with citizens, students, and children participated in the creative procedure. In the collaboration with art, architecture and landscape, the multi-functional facility became more harmonious place.

(Spatial Design Consultants Co.Ltd. H.S.)

有安 政敏

ARIYASU Masatoshi



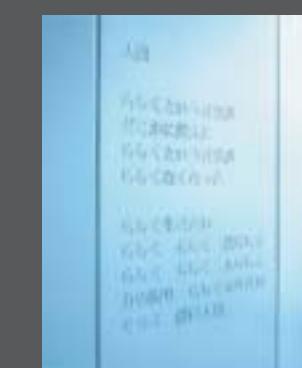
1947年長崎県生まれ／和泉市在住
Born in Nagasaki 1947 / Living in Izumi

働き盛りの30~40代に二度の脳出血に見舞え、全身の自由や言語、左視力など多くの機能を失う。懸命なりハビリを取り組み、1995年より、割り箸を口にくわえ、ワープロのキーを打つ方法により、詩作を始める。詩集の出版や地域に生きる障害者も健常者も共にふれあえるイベントを企画したり積極的な活動を展開している。

和泉の詩 Poetry of Izumi

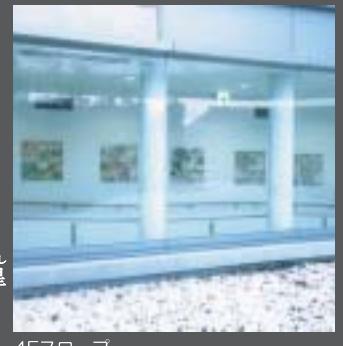
3. 年輪

美しい横様の年輪が出来上がったとき
その木は一生を終える
残された切り株 過ごした年月をさらけ出す
年輪となって 生き抜いた生き様を描く
むき出しの年輪を目の前にして
誰がその生涯を懐かしむだろうか
誰がその生き様を見つめるだろうか
それは分からぬ それは誰にも分からぬ



5. 「人間」

らしくという言葉がどこかに消えた
らしくという言葉がらしくなくなった
らしく生きたい
らしく らしく 僕らしく
らしく らしく ひとらしく
ちから かぎ力の限り らしくありたい
そうさ 僕は人間



1. 光のオブジェ

光に波長を合わせて 僕は見つめた
さり気なく過ぎて行く時を忘れた
風のざわめきと 水のざわめきと
小さな空間に出来た 小さな宇宙
光のゆらめきと 星のかがやきと
大きな空間に出来た 大きな宇宙
無限の空間をライトアップする
光のオブジェ 私の魂が浮遊した



4. まぼろし

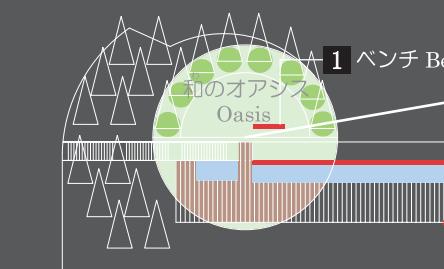
北から南へ 南から北へ
いつか少年は走った
昭和という時代を乗り越えて
いつか少年は歩く
すべての町並みも変わった
思い出ばかりくり返す
遠い未来が見えなくなつたとき
近い将来に願いをかける
過ぎた昔に思いを寄せる



6. 「満天の星」

ペガサスの翼にいだかれて
深く静かに 深く静かに眠る
弥生の民人
その魂は天空の馬にまたがり
暗黒の宇宙を駆ける
夜空を見上げれば そこは満天の星
命の輝き 幾億千万の星々

4Fスロープ



2. 光のプロムナード

時の流れも忘れて僕は見つめていた
木漏れ日の光のまぶしさと
流れる川のまぶしさに 目を細めていた
遠い思い出そのままの風景
時代にさらわれた風景に
いつまでも足をとられていた
忘れかけていた風景と心
素直な気持ちで見つめていた



ワークショップの様子